

**バイオテクノロジー研究会**

**◆バイオテクノロジー研究会全体【植物研究部会を含む】**

<p>1, 2 月</p>	<p>1. 2018 年度 第 1 回目会議を 2 月 21 日に開催</p> <p>(1) 新幹事会役割の確認、ILSI 行動規範等の確認： 年度初のため各種役割、ILSI 行動規範等の再確認を行った。</p> <p>(2) ERA プロジェクト調査報告 第 37 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(3) GM 微生物食品について： ・ 進捗報告なし。</p> <p>(4) GM 作物について： ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会についての準備の現況報告が行われた。開催は 4 月 25 日に決定した。 ・ 2017 年 12 月 15 日の「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーの活用に関する勉強会」開催結果報告がなされ、今後の「イルシー」誌等への投稿について議論された（今後継続検討）。 ・ ERA 報告書に長年ご尽力頂いている林先生に、これまでの ERA の歴史を整理することを目的に「日本における GM 作物の ERA の歴史」のご執筆を依頼することが提案され、可決された（今後継続検討）。</p> <p>(5) その他情報共有化 「農林水産業イノベーションシンポジウム」 (3 月 20 日農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課技術安全室主催)</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>1. 2018 年度 第 2 回目会議を 4 月 11 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 38 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) GM 微生物食品について： ・ 進捗報告なし。</p> <p>(3) GM 作物について： ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会（4 月 25 日開催） フクラシア丸の内オアゾで開催。産官学一般計 59 名参加。 2016 年 ILSI ERA 勉強会の振り返り、日本における遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価の考え方（佐藤忍先生 筑波大）、隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティの考え方と現状（大澤良先生 筑波大）、2016 年 ILSI ERA 勉強会の振り返り（雑草の特徴について）（黒川俊二先生 農研機構） ・ 2017 年 12 月 15 日の「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーの活用に関する勉強会」 開催結果報告は発表者である齋藤先生より「イルシー」誌へ投稿いただくこととなった。 ・ 「日本における GM 作物の ERA の歴史」</p>

	これまでの ERA の歴史を整理することを目的に執筆いただくことが林先生ご本人からも承諾された。12月の第41号 ERA 報告書と同梱し送付できるよう準備開始。
5, 6月	
7, 8月	
9, 10月	
11, 12月	